

## 平成29年度第2回北杜市図書館協議会会議録

- (1) 会議名：平成29年度第2回北杜市図書館協議会
- (2) 開催日時：平成29年9月11日（月）午後1時30分～午後3時30分
- (3) 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SVホール
- (4) 出席者：協議会委員 柴山 裕子／山中 長壽／手塚 正子／堀内 直美  
須田 由美子／金子 朋子／小澤 志保子  
小淵沢小学校図書館司書 五味 富貴子  
事務局 坂本図書館長／深澤 寛美・小野 まどか・  
相吉 悠（総務担当）
- (5) 議題：
  - (1) 読書通帳について
  - (2) 新聞・雑誌アンケート調査の実施について
  - (3) 北杜市図書館ボランティア情報交換会の開催について
  - (4) その他

報告：
  - (1) 第3次北杜市子ども読書活動推進計画策定について
  - (2) 各図書館の近況報告について
  - (3) その他
- (6) 公開・非公開の別：公開
- (7) 該当なし
- (8) 傍聴人の数： 0人
- (9) 審議内容

### 議 題

#### 1) 読書通帳について

事務局：3月議会において、議員から、最近読書通帳を導入している図書館が見受けられるが、北杜市図書館でも同様のサービスを導入してはどうか、という意見が出た。当然ながら今年度予算化していない中でどういう対応ができるかを検討するわけであるが、まず、図書館運営会議において、市内8館の職員の意見を確認したところ、はじめは物珍しさで利用があっても、継続的な利用は見込めないと思われる、とか、図書館利用者の増加につながると思われるなど、読書通帳の導入には、消極的、懐疑的な意見であった。利用者サービスの観点からは導入してもよいと考えるが、図書館協議会委員の意見を伺いたい。

※他市で導入している通帳を4種類、見本で提示。

- 委員：子ども対象であればよいかもしれないが、大人が、自分で記入し利用するかは疑問である。
- 委員：やりたい人はすでに自分の読書ノートを作って記録しているので、市独自の読書通帳を利用するかはわからない。
- 委員：子ども対象であれば、励みになると思われるが、キャッシュコーナーのように機械で記帳するタイプのものでは経費がかかってしまう。
- 委員：子ども対象に行っている読書マラソンは、記録するやり方をしているのか。
- 事務局：スタンプラリーではスタンプを押すが、感想などを無理に書かせることはしない。また、学校内ですでに読書通帳を導入しているという情報は来ている。
- 委員：学校内で読書通帳を利用しているところは見たことがあり、子どもたちには励みになっている。一方、高齢者が以前に借りた本であるかどうかを忘れてしまうことがあるが、読書通帳を活用すれば解決できる。高齢者向けには記入欄が小さいという問題もある。
- 委員：インターネット登録をすれば、自分が借りた履歴を照会できる。また、新聞の書評で興味を持った本を、市の図書館HPで検索すれば、所蔵しているかどうかすぐにわかるし、所蔵していればその場で貸し出し予約ができる。貸し出し準備ができれば、その旨メールで連絡が来る、といった便利なシステムがある。このような便利なサービスをもっとPRしてもよいと思う。予算の関係もあるが、大人向けには、読書通帳を1冊使ったら何か貰えるサービスがあれば、利用が増えるかもしれない。
- 事務局：インターネット登録については、各図書館での掲示などでPRするよう考える。
- 委員：議会で質問した議員は、読書通帳の導入の要望を受けて提案したのか。
- 委員：恐らく、3月に朝日新聞に掲載された読書通帳の記事を読んで、北杜市の導入状況を確認したものと思われる。
- 事務局：答弁書には質問の背景までは記載されていないので、ここでは確認できない。声の多少は定かでないが、住民の声を拾っての質問であったと思われる。
- 委員：図書館利用者に、読書通帳を利用するかどうか尋ねたところ、最初の1～2冊は記入するかもしれないが、最後まで記入するかどうかわからない、との回答であった。
- 事務局：今年度に入り、同議員から進捗状況について質問が来ている。3月議会で、図書館協議会で諮り必要に応じて設置していく、と答弁しているので、絶

対に設置しなければならないというものでもないが、図書館職員の意見は積極的ではなかった。

会 長：現場の職員の意見はどうであるか。

図書館：自分の小さなノートに記入している利用者が結構いるため、統一様式の枠に当てはめると使いづらいケースもある。

委 員：小中学生の読書意欲を育むという意味では効果的で、各学校でも導入しているとのことだが、大人の図書館利用や読書意欲が増すということは考えにくい。しかし、議会から質問が出ているということであれば、導入した結果がどうであったのか、他市に状況確認するのもよいと考える。一定の成果があったのであれば取り組む意義がある。

委 員：読書通帳は本人が記入し、その内容を図書館が確認できるものではないので、効果は確認できないのではないか。

事務局：実際の利用の有無はともかく、一定の印刷部数のうち、利用者が興味を持って持ち帰った部数は把握できる。導入している近隣他市の利用状況を確認し、利用が多ければ北杜市でも導入する価値はあると考える。

委 員：とりあえず導入してみて、あまり成果がなければやめてもよいのではないか。持ち帰った部数と、生かされたか、図書館利用が促進されたかは別の話ではあるが、やってみてはどうか。

委 員：本のタイトルや読んだ日付を記入する程度ならよいが、本の感想を書かせるのが目的であれば、子どもには感想欄が小さい。読書通帳に何を求めるかによって、書式も変わる。

委 員：公共図書館では利用内容まで確認ができない。また、大人・子ども兼用として、漢字に振り仮名が振ってあるなど、大人からすれば違和感がある。大人に利用してもらうには、最低でも大人用・子ども用に分ける必要があるのではないか。

会 長：では、試しに設置してみるということによろしいか。形態はどうするか。

委 員：作成も大変だと思うが、試しに設置してみてはどうか。通帳型を使用している学校では、子どもが意欲を増しているようである。

委 員：図書館カウンターで、来館者に読書通帳を提示しながら、利用したいかどうか尋ねてみてはどうか。反応を見て好感触であれば、導入するということではどうか。

図書館：読書通帳を導入している学校もあり、子どもの利用は見込めない。また、大人は独自に読書記録をつけている人もいるので、手に取ってもらえるかどうか懐疑的である。

図書館：高齢な利用者で以前に借りた本を再度借りてしまうケースもある。PCが使えない利用者には必要なサービスかもしれない。

会 長：今回は作成せず、各委員も周囲の人に読書通帳を利用するかどうか聞いてみて、その結果により次回協議会で決定するのはどうか。

委 員：全員賛同

会 長：各図書館においても、来館者に読書通帳の利用について尋ねてほしい。

## 2) 新聞・雑誌アンケート調査の実施について

事務局：アンケート（案）のとおり、昨年に引き続き調査を実施する。今年度は、購読誌を検討する際に調査結果をより反映できる内容に変更した。

委 員：昨年度アンケートを取った結果、配置換えになった新聞・雑誌はあるか。

事務局：アンケート数が少なく、うまく反映させられなかった面はあるが、新聞はすたま森の図書館で一部入れ替えがあった。

委 員：アンケートの回答者は、来館者か。回答者数は何人か。

事務局：アンケートは来館者に配布し、回収箱へ入れてもらった。回答者数は8館で、330人であった。また、館により回答者数にばらつきがあった。

アンケート調査を始めた経緯は、同じ新聞を数館で購読しており、ある館で他の新聞に変えたところ利用者から元の新聞を購読するよう強い希望が出たため、市内利用者から広く購読希望を募り購読紙の決定の参考にするということであった。アンケートの結果、元の新聞に戻った。

予算が減少する中、雑誌を新規に追加購入する場合は従来購読していた雑誌を減らさざるを得ず、図書館員も苦慮しているが、購読・貸し出し率などを見ながらできるだけアンケート結果を反映させていく。

委 員：昨年は統一の用紙であったが、今年度は各館ごとに細かく要望が出せる内容になっており良いと思う。むかわ図書館と明野図書館は、新聞が2紙のみで、そのうち1紙は山日新聞なので、少し考えてほしい。意見を書く欄をいれてほしい。

委 員：先ほどの読書通帳の利用について、このアンケートの中に盛り込んでほしいかがか。

事務局：そのようにしたい。

会 長：アンケート調査の実施はできるだけ早く始めてもらいたい。

事務局：承知した。

## 3) 北杜市図書館ボランティア情報交換会の開催について

事務局：資料に基づき、11月開催予定で説明。

委 員：参加者が少ないのが課題である。

委 員：ボランティア種類別に分けて開催した年のほうが、参加者が多かった。イベント企画、本の修理、配架などボランティアの内容が多岐にわたるこ

とがわかったこと自体に意義があった。例えば本の配達は、現在特定の地域にしかボランティアがいないので配達範囲が限定されるが、ボランティアがいればもっと範囲を広げられるはずである。もっと宣伝をしてボランティアを増やしていくことにより、利用者も増やすことができると考える。図書館に対し、利用者が少ないとか敷居が高いというイメージを持つ市民が多く、そのイメージを払しょくするためにもPRをするべきである。また、働いている人が多いので、お話し会のボランティアの先行きが不安である。

事務局：北杜市図書館ボランティア登録は200人を目標としている。27年度には201人あったが今年度は185人と変動がある。ボランティアの中には草刈り作業などもあり、敷地の広い金田一やたかね図書館では非常に助かっている。朗読ボランティアの中には、高齢化によりボランティア活動の休止を考えているところもある。今後は、図書館内だけでなく、市役所や他施設でも表示を行い、ボランティア内容についても分かりやすくPRできるよう考えていく。

意見交換会の形態は、グループ分けする、全体で行う、意見交換会後に研修を行う、などどういった形がよいか意見を伺いたい。

委員：昨年度の研修内容はどうであったか。

事務局：ボランティア、図書館職員、それぞれを対象に、ペープサートの研修を行った。手遊び、わらべ歌についての研修も行ってきた。ボランティアの内容が多岐に渡るので、どの分野を取り上げるか判断が難しい。

委員：参加した朗読研修は、内容が非常に良かったが参加者が少なく残念であった。時間が割けないのかと思うが、研修を受けることで、自分が読み聞かせをする中で活かせることがある。また、ボランティアの高年齢化の対策として、学生や若者対象の研修などを行って、ボランティアの育成や世代交代を検討する姿勢が大切である。

委員：子ども向けの読み聞かせは、字が読めれば誰でもできると考えがちであるが、絵本の持ち方ひとつから、大人の朗読とは異なる。また、振り仮名が振ってある本は、振り仮名を読むことが基本であることを知らない。基本についての研修が必要であると考えます。

事務局：世代交代については必要と考えるが、仕事を持っている年齢層は活動が土日限定であったり、ボランティアへの気持ちはあっても登録をするところまでは考えない傾向もある。しかし、待っているだけでは来てもらえないので、できる範囲でよいので活動していただくようにアプローチしていくことが大事であると感じた。八ヶ岳自立圏共生ビジョンの関係で原村図書館を訪れた際、図書館内に子どもが作った標語が掲示してあり、子どもボ

ランティアとして登録している小中学生の作品であった。子どもの手による標語は、同世代の子どもにも、大人の利用者にも届くものがあり、北杜市図書館においても、各館と相談し導入を検討したい。一連の事業が落ち着く11月ごろから、これらの課題に手をつけていきたい。研修内容については、日ごろ接しているボランティアの方々や協議会委員の身近なボランティアの意見を伺って、ボランティア自信が望む内容の研修を実施したい。

- 会 長：ボランティア情報交換会については、開催の方向で検討してよろしいか。
- 委 員：全員賛同
- 委 員：研修対象の表記について、分かりづらいので、  
①読み聞かせ 団体・個人 ②朗読 団体・個人 ③その他 団体・個人  
に変更するのが望ましい。
- 委 員：小学校で朝読書のボランティアをしている保護者もいるので、研修への参加を促して、将来的に子供の手が離れたら、図書館ボランティアとして活動してもらえるように考えてはいかがか。学生ボランティアについては、高校生が母校の小学校で朝始業前の読み聞かせボランティアを行ったところ、年齢的に近かったこと、読み方に工夫をしたことで小学生の興味を引き、また高校生自身にも良い体験になった。このようなボランティアもあるということを図書館からも発信することにより、将来的な図書館ボランティアの確保につながるのではないか。
- 委 員：子ども図書館祭りなどでぜひ協力をお願いしたい。高校にボランティア募集をPRしてはどうか。
- 事務局：良いご提案をいただいた。具体的なイベント名を出して、高校生やその保護者を巻き込むような形で、幅広い世代にPRしていけるように検討していきたい。
- 委 員：土曜日にお話し会を行っているところもあるので、年に数回でも高校生ボランティアに協力してもらえよう働きかけをしていくのがよい。
- 会 長：協議会委員でボランティアに興味がある方は意見交換会に参加することで、どういったボランティアが行われているかわかるだけでも意義があると考ええる。ぜひ参加を願いたい。

## 報 告

### 1) 第3次北杜市子ども読書活動推進計画策定について

事務局より、進捗状況を報告。

8月24日、第1回策定委員会を開催し、第2次計画における成果と課題を報告し

た。第2次計画を基本とし、その成果と課題および、今後、保育園保護者、小中高生に対して行う読書活動アンケートの結果を反映させ、計画を策定していく。協議会で提示できるのは、2月に最終的に教育委員会の承認を受けたのちになる。

## 2) 各図書館の近況報告について

\*各図書館で行った事業、今後予定している事業について資料をもとに説明。

委員：アニメーションとは何か。

事務局：グループで一冊の本を読み、後で本の内容についての質問に答えていき、その本を深く理解していく手法。繰り返し行っていくことで、本からの情報を読み取る力がついてくる。スペインで始まったもので、現在は小学校でも大分実施されている。

委員：長坂のイベントが場所を変えて行われた理由は何か。

事務局：参加者が少なかったこと、参加者が毎回同じだったことから、やり方を変えて参加者を増やすためであった。

委員：場所を変えても参加者数は少ないままである。

事務局：新たな参加者がいたことは良かった。

委員：同じ日程でイベントが重なっている。

事務局：できるだけ重ならないようにしてはいるが、講師の都合で同じ日程になってしまうことがある。

委員：異なる曜日にすれば、参加しやすくなると思う。イベントが重ならないように努めてほしい。

委員：「怖いお話し会」をいくつかの図書館で開催している。夜間開催のイベントが流行っているのか。普通なら閉館している時間である。

事務局：閉館している時間だからこそ行ってみたいという気持ちもあると考える。県外では、閉館後の図書館内めぐり体験などもある。

委員：明野図書館はイベント参加人数が多い。小中学生に呼びかけているのか。

委員：小学校にチラシを配布したり、保育園、児童館などにも声をかけて来てもらっている。出演団体が自ら集客に努めており、大人の参加にもつながっている。

事務局：明野図書館のイベントは、地域委員会の補助金を受けてプロの劇団を呼んでいる。来年度以降、明野地区の子どもだけでなく北杜市内の他の地域が順番に回る形で参加できたら良いと思う。子どもたちにプロの演技・芝居に触れる機会を持ってもらうよう考えていきたい。平日開催でも、早い段階で保育園等に声をかけ、年間行事予定の中に組み込む形で参加を促していくことが効果的と考える。

委員：毎年恒例のイベントは、保育園でも予定に入れてくれる。また、長坂のショッピングモールに貼ったイベントチラシを見て野辺山から来た参加者がいたので、PRの大切さを感じた。

委員：参加人数は、PRもあるが、イベント内容の質にもよる。白州の「甲州弁劇」の参加者数も多い。

事務局：地元の出演者の家族や知人などで参加者が多く、席を増設するほど盛況であった。

委員：何をやるかで参加者数が変わる。

事務局：図書館職員の負担が多くなっているため、精査し、本当に喜んでもらえるものを図書館同士で協力してやっていく時期と考える。

委員：同じような内容のものをどこでもやっている。違うものをやる、統一するなど検討してはどうか。

事務局：近くの図書館で開催するから参加できるというメリットもある。どこをどう見直すかも含め検討したい。

委員：明野図書館からもイベントが多いので減らしてほしいと要望があった。職員数も少ない状況でイベントが多いのも大変なのは理解できるし、イベントを減らすことはできるが、図書館でたくさんの面白いイベントをやっていることをアピールし、多くの人に来館してもらうために明野図書館ファンクラブが中心となってやっているの、そこが薄まってしまうのは地域の図書館としてはいかなものかと考える。ボランティア主体のものはボランティアが極力やっているつもりなので、そこは理解してもらいたい。

事務局：承知した。

委員：戦争に関する展示が金田一図書館以外にやっていないのは非常に残念である。明野図書館は事情により今年度は中止にしたが、他の図書館での展示は行われなかったのではないか。過去のものとして忘れ去られていくのは悲しいことである。イベントとしてでなく、展示本としてだけでもやっていただきたい。

事務局：承知した。

委員：各地区における公共施設適正配置説明会に参加した。以前検討委員会での答申を受け、8図書館を存続させた経緯についてどのように考えるか質問したところ、非常に重く受け止めるとの回答であった。図書館は地域の文化の拠点として、各地域にあるべきであり、図書館が廃止された地域は市内交通網が充実していない現状、子どもたちが利用できなくなることが非常に懸念される。今後統廃合の話が出た際には、8館存続は崩さないでほしいと主張してほしい。



3) その他

- 平成28年度北杜市図書館事業報告の配布
- 金田一春彦記念図書館デジタルアーカイブ本公開記念シンポジウム、土曜ことば楽の開催についての案内と参加のお願い。

以上